

House Spiral

筑波技術大学 山地輝

富豪×シェアハウスの意義

富豪の住まいといえば、豪邸やプライベート性の高い高層マンション。しかし、彼らも人とのつながりを求めているのではないか？そこで「富豪向けのシェアハウス」を模索した。ただし、一般的なルームシェアには富豪が住む価値が見出しにくい。そこで、ソシオペタル空間の工夫や視認性の向上を取り入れ、自然な交流が生まれる設計とした。

富豪×らせん構造の意義

非効率でありながら独創的な螺旋構造を採用。これは、唯一無二のデザインが富豪の価値観に響くと考えたためだ。さらに、螺旋の隙間が自然光や風を取り込み、環境負荷を軽減。また、視認性の高さが異なる階の住民同士の交流を促し、コミュニティ形成を支える。

こうして、広大な邸宅でなくとも、富豪が価値を感じる集合住宅を設計した。

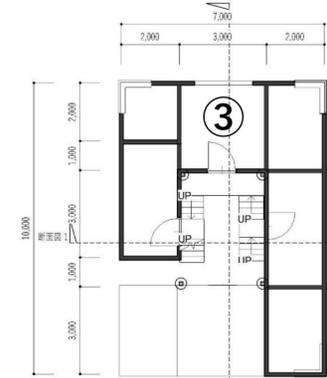
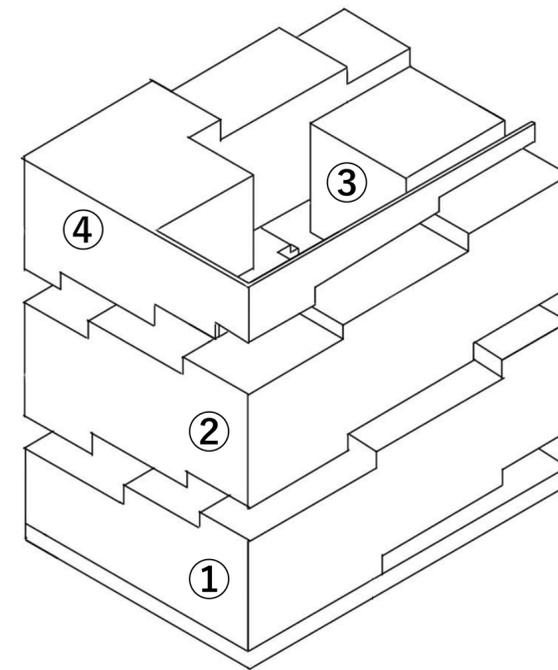
計画地：東京都渋谷区千駄ヶ谷2丁目
用途地域：第二種中高層住居専用地域
防火指定：準防火地域
敷地面積：114.80m²
建築面積：70m²
建ぺい率：60.98%
延床面積：170m²
構造：RC構造



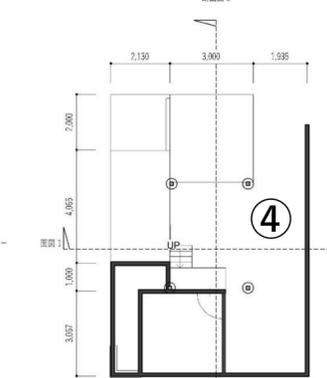
螺旋構造が生み出す浮遊感と開放性

正面から見ると、各層が浮いているように見える。この視覚的な効果は、螺旋構造だからこそ可能な技術だ。建物全体に隙間を設けることで、光や風を取り込み、環境負荷を低減すると同時に、視認性を向上させ、住民同士の自然な交流を生み出す。

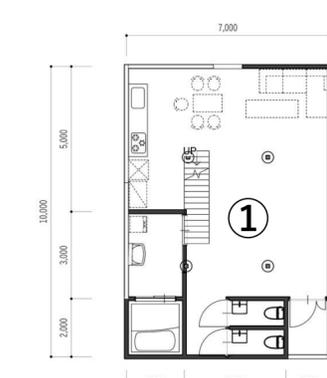
また、開放的なデザインながらプライバシーにも配慮。見える部分は周囲の建築物によって適度に隠れ、不安なく快適に過ごせるよう設計した。



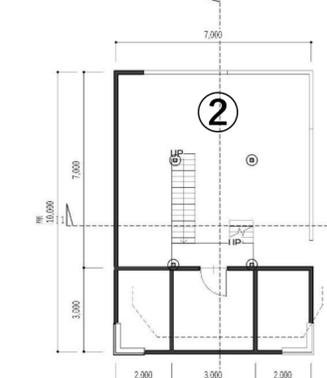
4階～9階 平面図



9階～11階 平面図



1階 平面図



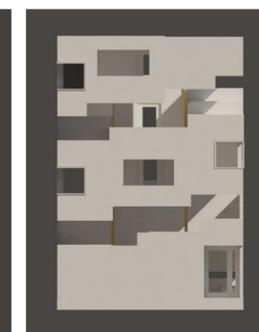
2階～4階 平面図

つながりを生む シェアハウスの工夫

シェアハウスの空間設計に工夫を凝らし、ソシオペタルな配置を採用して人とのつながりを促進。L字型ソファやダイニングテーブルを設け、自然な交流を生む工夫をした。さらに、「デフスペース」の考え方を応用し、視認性や適切な距離感を考慮した設計を行い、安全で開放的な空間を実現。螺旋構造の隙間も視認性向上に寄与している。



立面図 東面



立面図 南面



立面図 北面



立面図 西面